

ワーキングマザーを追い立てるのは時間と責任感 母親の負担軽減に必要なことは？

残業ができない、あるいは時短勤務で昼間は集中して働き、帰宅後は子供の世話に追われる。ワーキングマザーの1日は、とにかく密度が濃い。そんな彼女たちの悩みを調査。両立の悩み、小学生ママの悩み、家事の悩み、3つのパートに分けて紹介していく。

とにかく時間が足りなくて、何もかもが中途半端！

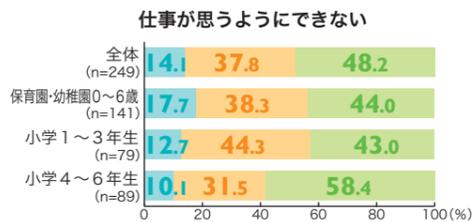
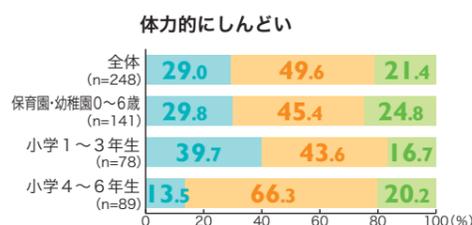
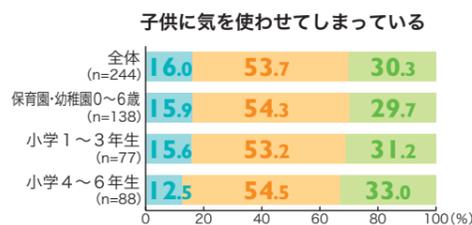
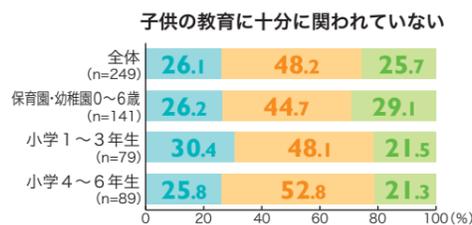
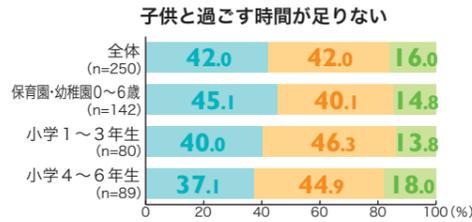
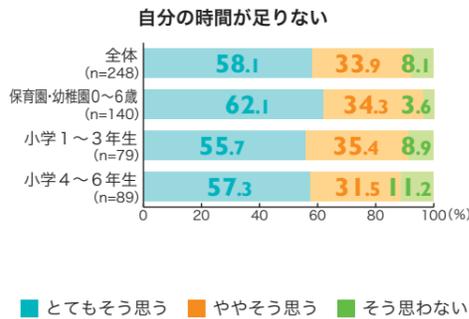
両立していく上での一番の悩みは、“とにかく時間が足りない”こと。子供と過ごす時間、料理に手をかける時間、自分のための時間、仕事に打ち込む時間…。「どれもこれも中途半端」（39歳 / 千葉）という声が、象徴している。

不満の要因は、夫の協力、社会の理解がない 母親の負担が大きすぎる

不満にしていることの主なものを子供の年齢別に見ていくと、「子供と過ごす時間が足りない」のは小学校低学年の母親にやや多い。会社によって、時短勤務制度が使えなくなることも原因か。「教育にかかわられていない」と感じているのは、小学校高学年の母親に多くなる。

「自分の時間が足りない」と一番強く感じているのは保育園・幼稚園児の母親で96.4%。小学校に入ると少しずつ手がかからなくなるとはいえ、高学年の母親でも88.8%が時間が足りないと答えている。

このような不満の要因が見えてくるのが、左の「不満にしていること」のフリーアンサーだ。家族（主に夫）の協力、勤務先・社会の理解が得られないといった内容が目立った。



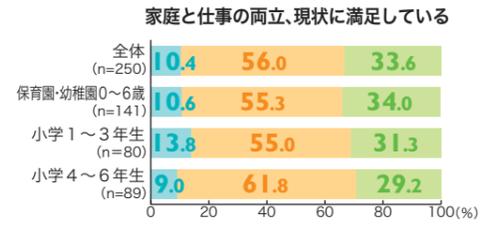
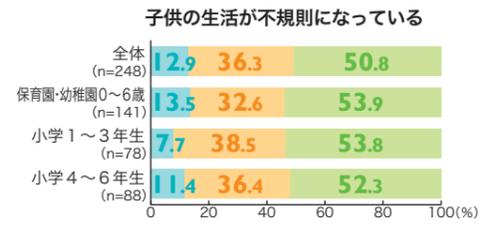
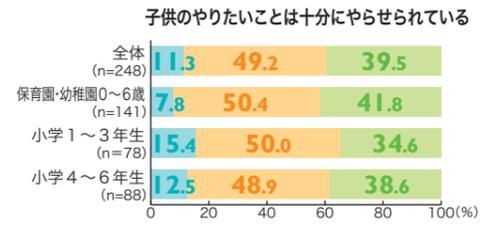
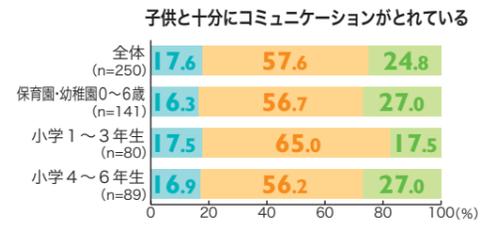
【調査概要】
 調査期間 2013年10月16日～27日
 調査方法 リビング、シティリビング、あんふあんのWEBアンケート調査
 有効回答 全国、小学生以下の子供を持つ働く女性 255
 ※各グラフのn数の差は不明回答によるもの
 ※各データは小数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100%にならないことがある
 ※子供は複数人数の場合があるので年齢別n数の合計と全体n数は一致しない

“もっと”手をかけてはいきたいけれど… 仕事も育児も短時間で密度濃く

84%のママが「子供と過ごす時間が足りない」と感じているが、「子供と十分にコミュニケーションがとれているか」と聞くと、「とてもそう思う」「ややそう思う」を合わせて75.2%。「とてもそう思う」だけを見ると、いずれのクラスターも20%を下回るが、「ややそう思う」は半数を超えている。少ない時間ながらも、密度の濃いコミュニケーションに努力している表れではないだろうか。同じように、「子供のやりたいことを十分にやらせられている」「家庭と仕事の両立の現状に満足？」も「ややそう思う」が半数近く。もっと良くしたいという強い思いの一方で、できる範囲で頑張っている自負心を感じる結果だ。「子供に本当はやってあげたいけれど、できないでいること」のフリーアンサー（右）を見ると、“もっと”という単語が頻りに登場するのが印象的だ。

両立の満足度は、小学校高学年の母親の「ややそう思う」が、他のセグメントより多くなっている。子供の成長や母親としての経験の積み重ねとともに、両立の問題の質は変化してくるのだろう。

■ とてもそう思う ■ ややそう思う ■ そう思わない



子供に本当は、やってあげたいけれどできないでいること

・手作りのお菓子を作ったり、食事の支度に手をかけることができない (44歳 / 東京)

・もっと凝った夕食を作ってあげたいけど、時間に追われて冷凍食品を使ったりと味気ないものになってしまっている (36歳 / 千葉)

・おやつと一緒に一緒にいてあげたい。寂しく一人でおやつを食べているかと思う。学童でみんなと一緒にのときには気にならなかったが、学童を辞めた後は気になってしまう (42歳 / 神奈川)

・もっと好きな習い事をさせてあげたいが、送り迎えができないのでなかなか本人の希望通りにできない (50歳 / 神奈川)

・もっと早く帰って、今日起きたことをじっくり聞いてあげること。帰ってからジェットコースターのようにお風呂→食事準備（その間子供は宿題、明日の準備）→食事→歯磨き、トイレを済ませてすぐ寝る（習い事がある日は22時になること）→朝6時に起こすことの繰り返しで、眠さとの戦い。話を聞いてあげる時間がない (39歳 / 神奈川)

・一緒に料理をしたり、宿題以外の学習をもっと見てあげたい。保育園の頃は一緒に散歩や折り紙やカルタをしていたが、今は余裕がなくてできない。学校の勉強以外に覚えてほしいことや教えたことがたくさんある (38歳 / 佐賀)

・習い事をさせたいと思っていますが通わせていません。平日の夜だと、帰りが遅くなるので次の日に影響がありそう。週末だと家族で過ごせる時間が少なくなるので、考え中です (40歳 / 東京)

・勉強の習慣づけをするように厳しく監督したいが、疲れてしまってあきらめている (44歳 / 神奈川)

・平日の学校公開の参観に行っても、あきらめること (45歳 / 東京)

HOW's View
24時間は多彩に変化利用シーンの見直しを
 ワーキングマザーの1日の密度の濃さには頭が下がる。早朝から深夜まで大車輪で動き、どうにか自分の時間も1時間程度確保する。だから時間を効率よく使うためのサービスには敏感だ。民間の学童保育も「送迎サービス」にママたちはとびついた。「朝残業」を推進する企業も出るなど、24時間はワーキングマザーのために、まだ多彩に変化する。専業主婦前提の時間は見直して、利用シーンを考えるべきだろう。短時間で深い睡眠を得ることも、さらにニーズが高まっていく。

育児休業や短時間勤務をとる社員が増えることは柔軟で働きやすい組織作りにつながるんです

「厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 職業家庭両立課 育児・介護休業推進室 室長補佐 中込和子さん」

育児休業や短時間勤務は、正社員だけでなく、パート社員も利用できる制度であるが、「パートの方など正社員以外の方については、従業員自身も事業主も知らない場合も多いんです」と中込さん。

次世代育成支援対策推進法の延長・強化が検討される中で、「法律・制度をもっと周知すること、利用しやすく復職しやすいような支援をさらに強化します。育児休業を取った本人への教育訓練に要した費用の助成や、利用しやすい短時間勤務制度の仕組み作りへの支援などを計画しています」。

企業は、従業員が仕事と子育てを両立できるように環境を整備するための行動計画を策定し、都道府県労働局へ提出することが義務付けられている（従業員百人以下の企業は努力義務）。目標を達成するなど一定の要件を満たして申請すれば、「子育てサポート企業」として認定され「くるみんマーク」が付与されるが、現状の認定状況は全国でも千六百社あまり。「男性の育児取得がないことがネックのようですね」。

「今後は介護離職の問題も大きくなるでしょう。育児でも介護でも、退職せずに就業を継続するための支援を整えていきたいと思っています。政府の両立支援も、さらに現場の運用に入ってきたきめ細やかな施策になりそうです」。

女性が出産後も仕事を続けるためには、男性の育児参加が不可欠。「企業にとっては男性の育児取得はまだ抵抗が大きいですが、組織のあり方を見直すチャンスでもあります。効率的な業務の進め方、情報を共有する仕組み作り、昇進昇格制度の明確化など、柔軟で働きやすい組織を作ることにつながると思います」。イクメン企業アワードに選ばれた企業の事例なども集め、さらに企業への周知を図っていく計画だ。

「子育てサポート企業認定マーク「くるみん」は、商品や広告などにつけてPRできる。企業説明会で女子学生に聞かれて、認定申請した企業もあるそう」。